解　説

第14章　　　　経済

景気観測

令和4年は持ち直し基調

　大阪府景気観測調査によると、令和4年の業況判断ＤＩは、ロシアのウクライナ侵略や急激な円安による原材料費や電気代の高騰等で、しばしば一服感もみられましたが、新型コロナに伴う行動制限が緩和され、社会経済活動が正常に戻りつつある中、持ち直し基調となりました。

業況判断ＤＩの推移(前期比、季節調整済、製造業・非製造業別)



※業況判断D1(Diffusion Index)：景況感を数値化した指標。景気が良いと判断した企業の割合から悪いと判断した企業の割合を

引いた数値で、「良い」だけであれば100、「良い」と「悪い」が同数であれば0となります。

[第14章1表より]

経済成長率

令和元年度は2年連続のマイナス成長(実質)

令和元年度大阪府民経済計算によると、府内総生産額は、名目が41兆1,884億円、実質(平成27暦年連鎖価格)が40兆6,732億円です。対前年度増加率(＝経済成長率)は、名目が0.8%減で7年ぶりのマイナス、実質は1.5%減で2年連続のマイナス成長です。



経済成長率

※令和元年度大阪府民経済計算では、基準改定(概念・定義や推計方法、表章内容等の見直し)を実施しました。

また、新基準による計数を平成23年度まで遡及して再推計しているため、過去の公表値から変更が生じていることがあります。

※「名目」は市場での金額を集計したもので物価変動の影響を含んだ値、「実質」は物価変動の影響を除いた値

※連鎖方式：実質化の指数計算において、前年を基準年として毎年積み重ねて接続する方法

大阪経済の変遷

[第14章7～8表より]

府内総生産(名目)と名目成長率、国の名目成長率



[第14章7表より]

府内総生産(生産側)(名目)における経済活動別割合



[第14章7表より]